

# 平成19年度 事業報告書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日)

学校法人 作陽学園

## 事業の概要

### I. 運営の方針

作陽学園は「大乘仏教に基づく宗教的情操教育により、豊かな人間性を涵養する」を建学の精神とし、「念願は人格を決定す 継続は力なり」を学是として、「菩薩道を歩むプロの養成」を本学の使命に掲げて教育事業を推進しております。

平成 19 年度は「西日本一の学園」という中期ビジョンを掲げ、中期計画の三本柱として“学生を惹きつけられる教育内容”“教育組織の再構築”“財政の健全化”の主要項目を設定し、ビジョン実現のため教育支援活動、学生支援活動、経営支援活動の三つのプロジェクトを設置した。

それぞれのプロジェクトが基本方針に基づき、計画実施に向けての具体的な課題の検討を行ない、活動内容と実施時期を決定した。今後はほぼ全員の教職員が参加する小プロジェクトの編成に伴い、中期計画達成のための全プロジェクトが始動することになります。

### II. 改革活動

平成 19 年度においては「内情充実とレベルアップ」「燃える集団づくり」という基本方針に基づいた重点目標設定を設置校或いは学部等毎に行っており、それぞれ最終的には各所属教職員が個人の目標を設定することによって目標の連鎖を図っています。また、FD、SD に関しては能力開発計画による各種研修と幹部宿泊研修を実施、建学の精神についての更なる理解と実践を目的とした「建学の精神にかえる」レポートのテーマを「私にとっての菩薩道」として大学、短大の全教職員から提出のうえ冊子として作成し、全教職員に配布しております。

### III. 当期の主な事業

- (1) 平成 22 年の学園 80 周年に向けて 80 周年記念ロゴの決定
- (2) 暮らしき作陽大学が高等教育評価機構による第三者評価を受け、認定される
- (3) 平成 20 年度開学予定の子ども教育学部子ども教育学科の設置準備
- (4) 子ども研究センターの設置、記念講演会の開催
- (5) 栄養学科と(株)マルイとの共同開発による栄養弁当の商品化
- (6) 栄養学科、作陽高校、(株)大塚製薬による「栄養サポートプロジェクト」を開始
- (7) ミュージックガーデン（夏期、冬期）開催
- (8) 作陽現代音楽祭開催
- (9) 音楽療法国際シンポジウム開催
- (10) 北イタリア演奏旅行実施
- (11) 作陽高等学校の寮兼食堂の建築
- (12) 在学生コミュニケーション誌「スピリッチ」を創刊

#### IV. 教育活動

##### くらしき作陽大学 音楽学部

###### 1. 平成 19 年度事業計画にて設定された 3 項目のグランドミッションにおける実績

(1) 「いきいきと音楽にいき、音楽をいかせる人」を育成し、社会に貢献します。

音楽の演奏、作曲、考察、この 3 通りの視点から勉強し精進する多数の若者達が、平成 19 年度末の卒業式にて希望に満ちて巣立って行きました。この卒業生達は、本学で経験し修得した音楽の深い感動を再創造し得る力を持って、人の生きる道に多方面から大きく貢献できると考えられています。

(2) 「音楽を通じて人生を奏でる夢に向かって努力する人」を、強い信念と卓越した技術で支えます。

多くの学生たちがコンクールに入賞し、多方面で各種の立派な演奏を実践し、また楽曲解説や論文等を作成できたのは、教授陣の真摯な指導の賜物であると言えるでしょう。

(3) 「世界に誇れる音楽の拠点」を倉敷に創造します。

多岐にわたる大学主催の各種演奏会、並びに講演会等と、本学の企画運営のノウハウにより、世界に誇れる音楽芸術の拠点としての認知度は日毎に増え、多くの外部からの聴衆を惹きつけています。

###### 2. 平成 19 年度重点目標 2 項目の実績

(1) 受験生には「夢」卒業生には「誇り」在 student には「充実感と達成感」。学びの園の「実感」を提供

学内にて実施されたアンケートにより実績を証明されています。

(2) 文化発信による大学の存在感のアピール

年間百回を越える演奏会や公開レッスン、また講演会などを学内ならびに学外で開催し、文化発信の拠点としての役割を果たしています。

###### 3. 「個性のある魅力を持った学部の構築」の実績例

(1) モスクワ音楽院の指導方式を拡大・徹底し、作陽の中での独自のシステムとして充実を図る。

モスクワ音楽院より来学中の教授陣との、より深い交流によって独自のシステムの充実について検討がなされました。

(2) 音楽療法の国際セミナーを開催し、日本における療法研究の主導的役割を担う。

平成 19 年 9 月 29、30 日の両日にわたり「第 2 回国際音楽療法セミナー」が開催され、成功裡に幕を閉じました。

##### くらしき作陽大学 食文化学部

グランドミッションとして「人間性豊かな人材を育成」、「食のコアリーダー育成」、食文化の拠点形成」を設定した。これに向けて教職員は達成すべく平成 19 年度は「教育活性—学生をやる気にさせる「仕組み」づくり—をテーマに各学科で重点目標を作成した。

食生活学科では「出席率 88%以上を達成する」ことを目標とし、(1)アドバイザー制度のより効果的な運営、(2)学科全員での対応、(3)学科会議で方法・仕組みを協議、(4)アセンブリー・アワーの有効活用、(5)授業の工夫・活性化、(6)公開授業の実施などを行った。

最終的には出席率は平均 92.7%を達成した。就職先は保育園や福祉施設の栄養士、中学・高校の家庭科教員、食品産業などで 100%を達成した。

フードシステム学科では授業・ゼミにおいて学生のやる気を喚起するために、自主性を生かした実習授業、スライドを使った授業におけるプリント作成の工夫、イタリア語レシピによる調理実習、地域の産学連携事業への学生の参画などを行った。食品産業で活躍する OB による食品開発の実際を集中講義で、学生自身による商品開発の実習なども行った。このような取り組みによって年末の学生アンケートにおいて、「やる気度」、「到達度」の上昇が認められた。これらの活動は単年度で終わるのでなく、学生のやる気を刺激するいろいろな仕組みを進化、向上させながら継続していくことが重要である。

栄養学科では重点目標として「ライセンスに誇りのもてる管理栄養士の養成」を掲げた。(1)管理栄養士国家試験対策：4 年生では学内模試、業者模試は予定通り実施し、1 期生、2 期生を上回る結果であった。国家試験対策は通常授業として栄養学演習を補習授業として夏休み 2 週間および 1 月－3 月に特訓授業を実施した。学生への対応は学科長が本人に直接結果を伝え、アドバイスを行った。全体の成績管理は担当教員等が行い、各教員に報告し、教科、ゼミ単位で指導した。3 年生、2 年生では各教科での充実した指導と、模擬試験の受験を促した。(2)国家試験結果：受験者 87 名、合格者 49 名、合格率 56.3%。(3)総括：管理栄養士になったものは希望者の 56.7%であり、職場で管理栄養士として十分な力を発揮できる人材を育成できたとは言いがたい。しかし現場で教育するものとしてはこの結果の理由が見当たらない。1、2 期生にも勝るシステムで教員は夏休み、長期休暇でも授業、ゼミ室を開放し、学生のやる気を起こさせ、モチベーションが落ちないようにした。業者模試も最終的には 1、2 期生を上回る結果であった。学内教育に問題があるとすればサイドシステムを見直す必要がある。一貫して成績の上まらないもの、国家試験対策に参加しないものが 20 名ぐらい存在しすべてが受験した結果であるが、国家試験に合格するレベルの入学者の確保、教員のモチベーションの向上などを再考すべきであろう。

### 作陽短期大学 音楽科

作陽短期大学音楽科は、「音楽のもつ無限の可能性を信じ、生涯を通じて良き音楽人になれるよう支援」、「教職員も常に学びつつ学生を支援します」、「音楽を通じて信頼関係を培い、社会の多様化に対応できる人材育成」のグランドミッションと「学生が夢をかたちにしていくための支援を、レッスン・授業を通して行う」と「本学の存在感をアピールするための活動、あるいは活動に対する支援を卒業後も継続して行う」の重点目標にしたがって、下記のように活動を行いました。また、授業やレッスンにおいて「挨拶」を厳しく指導しているため、学内においてはごく自然に行なわれるようになっていく。

1. 学生支援のための短期大学音楽科主催コンサートの開催
  - (1) デザミドミュージック
  - (2) ミュージカル公演
2. 所属教員による本学のアピール、学生・卒業生への支援、地域への貢献

- (1) 中学校、高等学校での吹奏楽クリニック
- (2) リサイタル
- (3) 創作オペラの公演
- (4) ミュージカル公演のためのアレンジ
- (5) 出張レッスン
- (6) ボランティア（地域でのパソコン教室）
- (7) 高等学校での出前講座

### 岡山県作陽高等学校

作陽高等学校では平成 19 年度の重点目標を定め、この重点目標に基づき各コース・年団・各部ごとの目標をそれぞれ設定し、全教職員・生徒が一体となって取り組みました。

#### 1. 地域に愛される学校をめざす

- (1) 津山市主催の「ごんご祭り」に生徒・教職員 120 名が踊りに参加した。
- (2) 「報恩の日」を利用して、全生徒が学年ごと交替しながら、今津屋橋から学校間の吉井川河川敷のゴミ拾いを実施した。この活動は岡山県でも評価され、アダプト制度（清掃の責任分担制度）による補助金も交付された。
- (3) 吹奏楽部は重度心身障害者施設や商業施設での依頼演奏で地域社会との交流を行った。
- (4) サッカー部は保育園児やスポーツ・クラブとの交流・指導を行った。  
こうした、地域行事への参加や市民との交流を通じて、地域に愛され、地域から支援される学校づくりへの端緒を開くことができた。

#### 2. システム・組織の活性化を図る

- (1) 各部会、学年会、教科会を定期的に関き連絡を密にした。
- (2) 入学式、卒業式、報恩の日等の行事の厳粛化。
- (3) 平成 21 年度からの音楽科募集停止と併せて、コースの再編成に着手。

#### 3. コースに応じた教材で満足に行く授業、分かりやすい授業であるための創意・工夫

- (1) 各コース、学年毎のシラバスの作成と提出の義務化。
- (2) 進学指導について、放課後の居残り授業のあり方、長期休暇中の補習授業のあり方、合宿のあり方について再構築。

### 事務局

#### 1. 「組織能力と個人能力のレベルアップ」

平成 19 年度 事務局は、学生の支援、教学部門の支援、学園経営への支援といった本来の役割を達成するため、「組織能力と個人能力のレベルアップ」を重点目標に掲げました。特に平成 19 年度は、日本高等教育評価機構による「大学認証評価」、子ども教育学部子ども教育学科の設置と同学科の学生募集や開設準備、「定員割れ改善促進特別支援経費」の助成申請等例年以上に事務局の組織としての能力や、事務職員個人の能力を問われる業務が集中した。これらの業務全てに良好な結果を出

すことができたのは本学事務局のレベルがこれらに十分対応できるものであることを示すとともに、これらの業務を通してのレベルアップも果たすことができたのではないかと考えている。特に中堅事務職員に自覚と意欲の増大が見られることは大きな収穫である。

## V. 収支の状況

### 1. 資金収支計算書の概要

収入の大部分を占める学生生徒納付金は予算に対して約 7,097 千円の減収、寄付金収入は 15,491 千円の増収、補助金収入は 3,622 千円の減収となっています。有価証券の満期償還、引当預金からの繰り入れ収入等により、収入合計は予算比 493,987 千円増の 5,726,536 千円となりました。一方、支出のうち人件費支出については予定外退職金による増加があるにもかかわらず、教職員人件費の減額により予算比約 4,629 千円の減少。管理経費は雑費に一過性の予定外支出が含まれており、この経費を除外した場合は教研経費とも予算に対し減少しています。施設・設備関係支出の予算比減額は、主に高校の寮兼食堂の竣工時期の遅延によるものです。特定預金の増額による資産運用支出の増加、有価証券の満期償還による支払い資金の増加等により、支出合計は収入合計と同様に予算比 493,987 千円の支出増となりました。

### 2. 消費収支計算書の概要

収入について、学生生徒等納付金、手数料、補助金、事業収入が予算に対して約 33,008 千円の減額となっていますが、寄付金、資産運用収入、退職金財団からの交付金収入等の増加により、帰属収入合計では予算比約 31,583 千円増収の 3,290,142 千円となっています。高校の寮兼食堂に係る基本金組入額を次年度の組み入れとしたため消費収入合計は、予算比約 130,043 千円増加の 3,210,286 千円となりました。支出については、管理経費の増加がみられるものの、一過性の経費支出によるものなので、人件費、教育研究経費とも予算比減額となっており、経費節減の効果が表れているといえます。その結果、消費支出合計は予算比約 16,554 千円減額の 3,223,370 千円で、帰属収支差額は 66,773 千円の収入超過となりました。消費収支差額は 13,084 千円の支出超過となっています。

## VI. 進路支援活動

本学では、進路支援には特に注力しており、各種の進路支援講座の開設、学内での合同企業説明会の開催、インターンシップの実施など各種の進路支援施策を行っています。平成 19 年度においては、就職活動や進学活動がスムーズに行なえるよう学生の立場に立った指導助言を行い、9 年連続 90%以上の就職率維持と優良企業への就職者数の増加を目標に活動の結果、平成 20 年 5 月現在において進路決定率は音楽学部平均 97%、食文化学部平均 97%、短期大学音楽科 100%となっています。

## 2. 財務の概要

### (1) 資金収支計算

(収入の部)

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
1 学生生徒等納付金収入	2,299,067	2,305,450	6,383
2 手数料収入	40,117	36,754	3,363
3 寄付金収入	90,617	106,108	15,491
4 補助金収入	559,202	555,580	3,622
5 資産運用収入	49,415	50,138	723
6 資産売却収入	0	10,012	10,012
7 事業収入	81,407	62,482	18,925
8 雑収入	147,248	183,591	36,343
9 前受金収入	460,166	394,283	65,883
10 その他の収入	130,121	678,290	548,169
11 資金収入調整勘定	498,761	516,621	17,860
12 前年度繰越支払資金	1,873,950	1,873,950	0
収入の部合計	5,232,549	5,740,016	507,467

(支出の部)

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
1 人件費支出	2,044,482	2,039,853	4,629
2 教育研究経費支出	541,089	543,998	2,909
3 管理経費支出	267,376	288,928	21,552
4 借入金等利息支出	195	166	29
5 借入金等返済支出	4,601	4,601	0
6 施設関係支出	250,000	169,322	80,678
7 設備関係支出	131,316	102,409	28,907
8 資産運用支出	500,000	1,107,156	607,156
9 その他の支出	138,249	149,922	11,673
10 [予備費]	8,500	-	8,500
11 資金支出調整勘定	90,539	83,078	7,461
12 次年度繰越支払資金	1,437,280	1,416,738	20,542
支出の部合計	5,232,549	5,740,016	507,467

主な収入科目の内容は次のとおりです。

- ア) 収入の大部分を占める学生生徒納付金収入は2,305,450千円となりました。  
授業料、入学金、教育運営費、実験実習費、施設設備費などが主な収入です。
- イ) 手数料収入は36,754千円となりました。  
入学検定料が主な収入です。
- ウ) 寄付金収入は106,108千円となりました。  
大学・短大後援会、高等学校PTAからの寄付金が主なものです。
- エ) 補助金収入は555,580千円となりました。  
国庫補助金、地方公共団体補助金が主な収入です。

主な支出科目の説明は次のとおりです。

- ア) 人件費支出は2,039,853千円となりました。  
教員人件費、職員人件費、退職金などの支出です。
- イ) 教育研究経費支出は543,998千円となりました。  
教育研究活動に直接必要な消耗品、旅費交通費、印刷製本費、光熱水費、業務委託費などが主な支出です。
- ウ) 管理経費支出は288,928千円となりました。  
教育研究の諸活動に間接的に必要な消耗品等の経費です。
- エ) 施設関係費支出は169,322千円となりました。  
主に高等学校の寮兼食堂の建築に係わるものです。
- オ) 設備関係支出は102,409千円となりました。  
教育研究用機器備品や図書などの購入経費です。

## (2) 消費収支計算

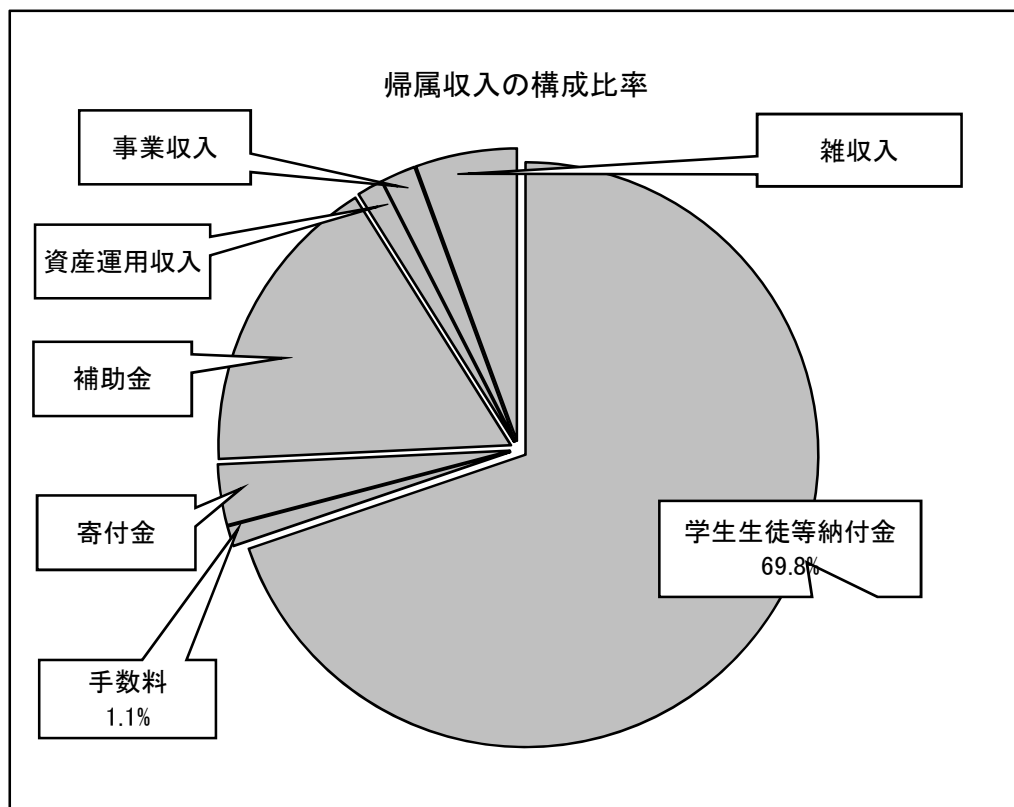
(収入の部)

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
1 学生生徒等納付金	2,299,067	2,305,450	6,383
2 手 数 料	40,117	36,754	3,363
3 寄 付 金	90,617	111,090	20,473
4 補 助 金	559,202	555,580	3,622
5 資 産 運 用 収 入	40,901	46,922	6,021
6 事 業 収 入	81,407	62,482	18,925
7 雑 収 入	147,248	185,346	38,098
8 帰 属 収 入 合 計	3,258,559	3,303,622	45,063
9 基 本 金 組 入 額 合 計	178,316	79,856	98,460
10 消 費 収 入 の 部 合 計	3,080,243	3,223,766	143,523

主な収入の内訳は次のとおりです。

- ア) 寄付金には、資金的な寄付金のほかに現物寄付金が含まれます。
- イ) 資産売却差額は売却額と帳簿価額との差額のことですが、今回は該当事項はありません。
- ウ) 帰属収入とは、学生生徒納付金、手数料、寄付金、補助金などの負債とならない法人に帰属する収入のことです。
- エ) 基本金組入額は、学校法人が教育研究活動を行なうためには、校地、校舎、機器備品、図書、資金などの資産を持ち、これらを維持する必要があります。これらの諸活動に必要な資産を取得するために、帰属収入から充てた金額をもって、維持する資産の額とし、これが学校会計で基本金組入額とよばれているものです。



(支出の部)

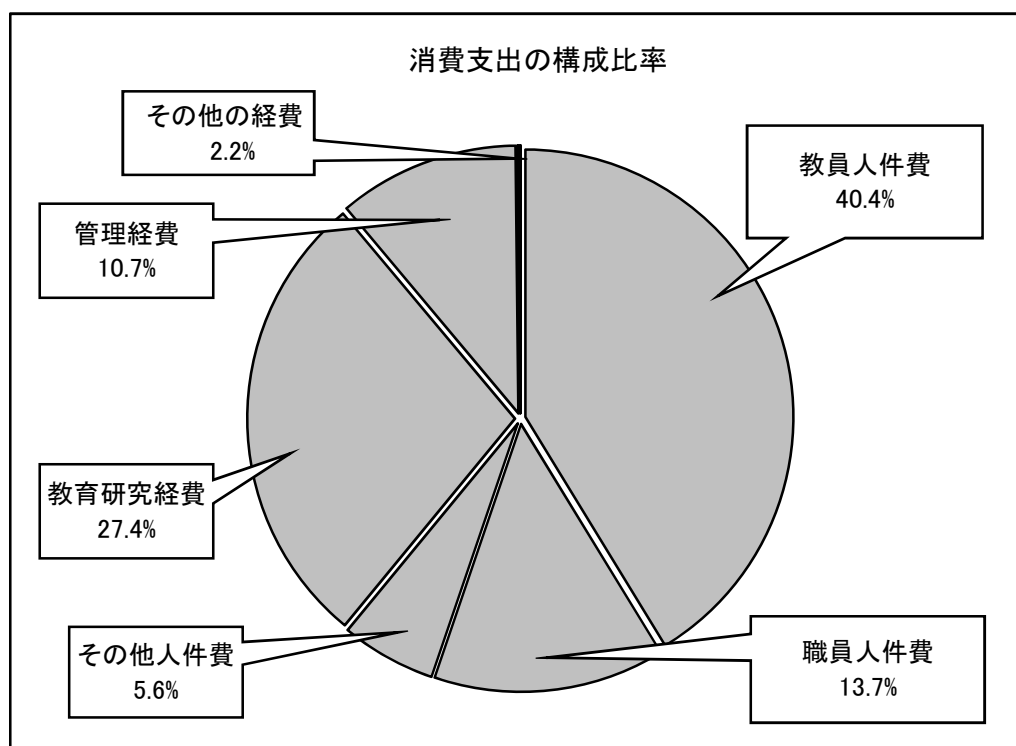
(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
1 人 件 費	1,983,768	1,973,356	10,412
教員人件費	1,382,092	1,335,525	46,567
職員人件費	456,687	452,047	4,640
その他人件費	144,989	185,784	40,795
2 教育研究経費	904,784	903,740	1,044
(内減価償却額)	363,695	359,742	3,953
3 管理経費	332,090	353,940	21,850
(内減価償却額)	64,714	65,011	297
4 借入金利息	195	166	29
5 資産処分差額	856	774	82
6 徴収不能引当金繰入額	5,452	4,691	761
7 徴収不能額	4,279	2	4,277
[ 予備費 ]	8,500	-	8,500
8 消費支出の部合計	3,239,924	3,236,670	3,254
9 帰属収支差額	18,635	66,953	-
10 当年度消費収支差額	159,681	12,904	-

注1 帰属収支差額 = 帰属収入 - 消費支出

主な支出の内訳は次のとおりです。

- ア) 人件費の退職金について、消費収支では資金収支と異なり、退職給与引当金繰入額が計上されています。
- イ) 教育研究経費、管理経費には、資金支出のほかに減価償却額が計上されています。
- ウ) 資産処分差額とは、機器備品、図書などの廃棄にともなう、除却損のことです。
- エ) 金銭債権のうち、回収不能額を見積もって設定する引当金を徴収不能引当金、引当金を設定していない場合、或いは引当金額を超えている場合は徴収不能額として処理します。



### (3) 貸借対照表

#### 貸借対照表

資産の部

(単位：千円)

科 目		本年度末	前年度末	増 減
資 産	固定資産	21,343,344	20,931,167	412,176
	有形固定資産	17,599,289	17,748,115	148,826
	その他の固定資産	3,744,055	3,183,052	561,003
	流動資産	1,597,768	2,002,316	404,548
合 計		22,941,112	22,933,483	7,629

負債の部、基本金の部、消費収支差額の部

(単位：千円)

科 目		本年度末	前年度末	増 減
負 債	固定負債	736,347	807,530	71,183
	流動負債	507,208	495,349	11,859
	計	1,243,555	1,302,879	59,324
基本金		23,112,375	23,032,518	79,857
消費収支差額		1,414,818	1,401,914	12,904
合 計		22,941,112	22,933,483	7,629

ア) 平成19年度末(平成20年3月31日)の資産、負債、基本金、消費収支差額の財政状態を示しています。

イ) 資産の概要

有形固定資産の減少は建物等の減価償却によるもの、その他固定資産の増加は有価証券等の購入によるものです。

1号基本金への振り替えのため、2号基本金引当特定資産を取り崩しています。

流動資産の減少は現金預金を有価証券購入、特定預金繰入れ等に充当したことによるものです。

ウ) 負債の概要

固定負債の減少は主に退職給与引当金によるもの、流動負債の増加は前受金によるものです。

エ) 基本金の概要

増加の主因は高等学校寮兼食堂建築及び子ども教育学部設置に係る機器備品・図書によるものです。

オ) 消費収支差額の概要

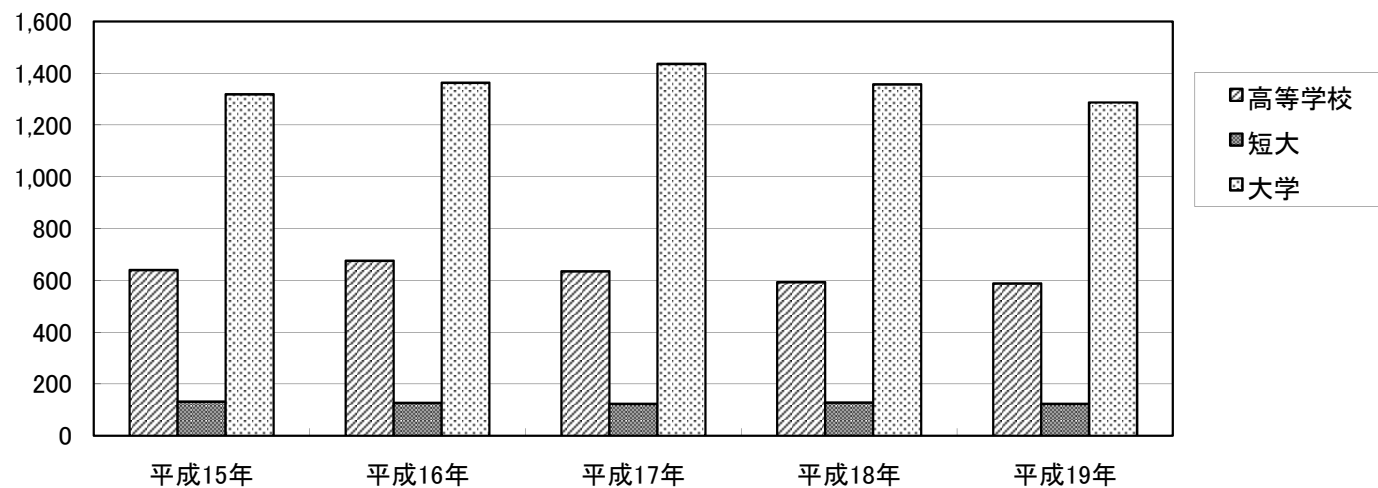
前年度までの支出超過額に今年度の支出超過額12,904千円が加われました。

### 3. 学生数・財務比率等の推移

#### (1) 学生・生徒数の推移 (現員数は5月1日現在)

	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	収容定員	現 員	収容定員	現 員	収容定員	現 員	収容定員	現 員	収容定員	現 員
くらしき作陽大学	1,400	1,319	1,496	1,364	1,592	1,437	1,592	1,358	1,592	1,288
音楽学部	800	743	800	709	800	717	800	661	800	584
音楽学科	540	472	540	440	540	443	540	408	540	359
音楽教育学科	260	271	260	269	260	274	260	253	260	225
食文化学部	600	576	696	655	792	720	792	697	792	704
食生活学科	320	342	260	282	200	219	200	205	200	210
フードシステム学科	120	28	180	65	240	104	240	106	240	116
栄養学科	160	206	256	308	352	397	352	386	352	378
作陽短期大学	160	132	160	127	160	124	160	129	160	124
音楽科	160	132	160	127	160	124	160	129	160	124
作陽高等学校	950	641	855	676	854	635	853	594	853	589
普通科	860	613	765	652	764	615	764	575	822	573
音楽科	90	28	90	24	90	20	90	19	30	16

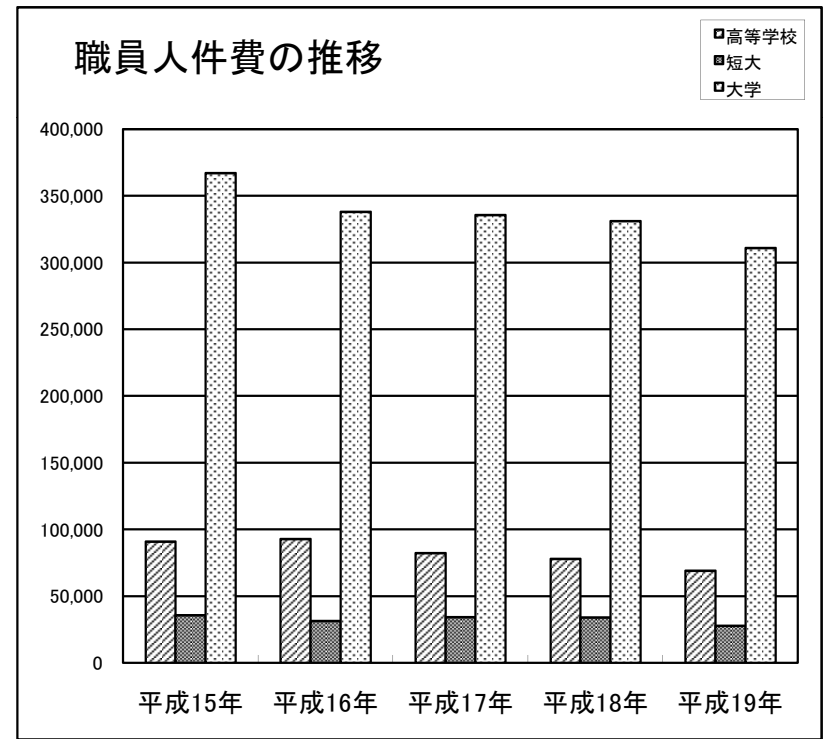
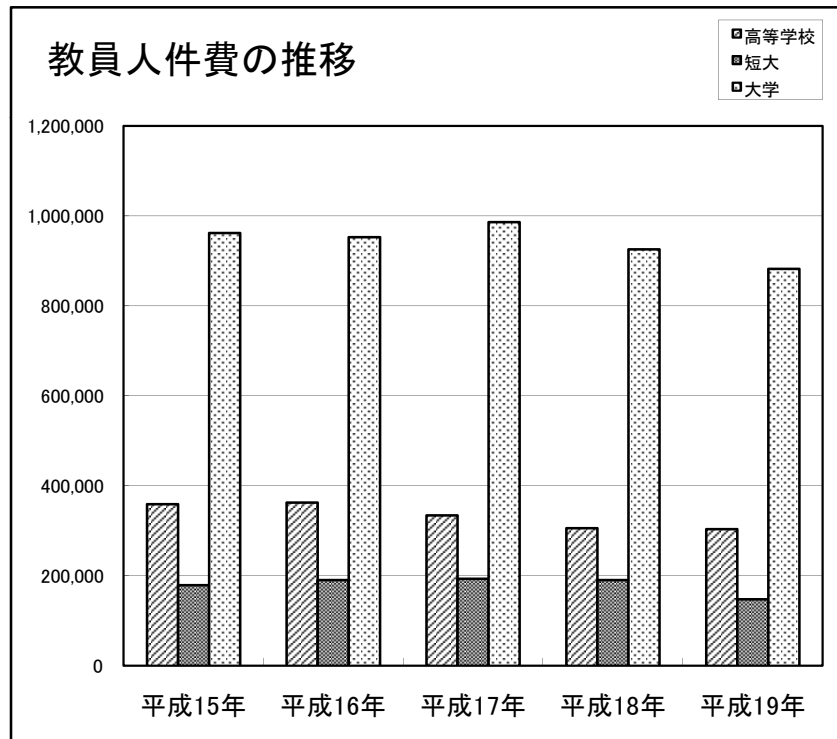
学生・生徒数の推移



(2) 人件費支出額の推移

【単位:千円】

	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	教員人件費	職員人件費	教員人件費	職員人件費	教員人件費	職員人件費	教員人件費	職員人件費	教員人件費	職員人件費
法人部門	—	40,465	—	54,828	—	57,809	—	54,884	—	44,103
くらしき作陽大学	962,439	367,049	953,034	338,196	986,151	335,646	925,890	331,134	882,759	311,008
音楽学部	569,864	257,704	555,058	239,412	597,934	236,822	573,431	227,639	568,412	211,298
食文化学部	392,575	109,345	397,976	98,784	388,217	98,824	352,459	103,495	314,347	99,709
作陽短期大学	179,898	35,666	190,984	31,475	193,615	34,229	191,244	34,101	148,488	27,834
音楽科	179,898	35,666	190,984	31,475	193,615	34,229	191,244	34,101	148,488	27,834
作陽高等学校	359,779	91,000	362,944	92,844	334,697	82,276	306,006	77,916	304,278	69,103
合 計	1,502,116	534,180	1,506,962	517,343	1,514,462	509,960	1,423,139	498,035	1,335,525	452,047



(3) 帰属収入と帰属収支差額の推移

【単位:千円】

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
帰属収入合計	3,373,467	3,659,442	3,543,025	3,390,969	3,303,622
消費支出合計	3,423,623	3,629,406	4,842,736	3,337,832	3,236,670
帰属収支差額	△ 50,156	30,036	△ 1,299,711	53,137	66,953

(4) 消費収支計算の主な財務比率の推移

【単位:千円】

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
人件費比率	62.8%	61.9%	59.5%	59.5%	59.7%
教育研究経費比率	24.9%	25.0%	27.8%	28.8%	27.4%
管理経費比率	13.4%	11.2%	9.8%	10.0%	10.7%
消費支出比率	101.5%	99.1%	136.7%	98.4%	98.0%

※ 人件費比率＝人件費／帰属収入×100

教育研究経費比率＝教育研究経費／帰属収入×100

管理経費比率＝管理経費／帰属収入×100

消費支出比率＝消費支出／帰属収入×100

#### 4. 法人の概要

##### 設置する学部、学科等の名称及び入学定員と学生数

	入学定員	収容定員	学生・生徒数
くらしき作陽大学	380	1,602	1,301
音楽学部	190	810	597
音楽学科	120	540	359
音楽教育学科	60	260	225
音楽専攻科	10	10	13
食文化学部	190	792	704
食生活学科	50	200	210
フードシステム学科	60	240	116
栄養学科	80	352	378
作陽短期大学	90	170	132
音楽科	80	160	124
専攻科音楽専攻	10	10	8
作陽高等学校	284	852	589
普通科	254	762	573
音楽科	30	90	16

入学定員、収容定員、学生・生徒数は平成19年5月1日現在  
3年次編入学定員

音楽学部	音楽学科	30人
	音楽教育学科	10人
食文化学部	栄養学科	16人

##### 役員・教職員の概要

【役員】	理事長	松田英毅	監事	大濱勝美
	専務理事	帆足昭徳	監事	下村 董
	理事	兎束俊之		
	理事	馬淵久夫		
	理事	江原 稔		
	理事	相田俊夫		
	理事	石田一志		
	理事	松田藤夫		

【教職員】	専任教員数	くらしき作陽大学	95人
		作陽短期大学	13人
		作陽高等学校	39人
	専任職員数	法人本部	6人
		くらしき作陽大学	47人
		作陽短期大学	5人
		作陽高等学校	12人

役員氏名、教職員数は平成19年5月1日現在